

★第4回区議会定例会報告

平成22年区議会第4回定例会が、11月25日から12月14日まで20日間行われました。区長提出議案9件と議員提出議案4件が審議され、すべて可決しました。

今回の定例会で特に注目を浴びたのが、新砂に新たに建設される、保育園と高齢者のための小規模多機能施設との複合施設です。

第2回定例会で、東雲に建設する児童・高齢者複合施設「グランチャ東雲」が本区初めての複合施設であると前回「報告」しましたが、今回は、介護福祉施設の高齢者との交流ができる点で違いがあります。また施設内で日常的に交流ができる導線を引いたところに特色があります。

具体的な条例案としては、「江東区地域密着型介護施設条例」が制定され、鳥取県に本拠を持ち、東京ではすでに北区で保育園と介護福祉施設との複合施設を運営している、社会福祉法人「こうほうえん」が指定管理者として指定されました。

また、「江東区江東きつづくクラブの一部を改正する条例」が可決され、現在の4か所から来年度は7か所増え、合計11か所（明治・元加賀・東川・豊洲・豊北・有明・一亀・砂町・五砂・六砂・北砂）

のきつづくクラブが運営されることになりました。

一方で、議会と並行して、執行機関の各部から、来年度の予算要求が提出されています。一般会計予算の要求総額は、162.2億8543万8千円で、22年度予算と比較すると、95億5433万8千円、6.3%の増となっております。特別会計と合わせた全会計の要求総額は、241.6億3443万8千円で、昨年度比5.8%増となっております。

この予算は今後様々な査定を経て、最終的には、今年の2月25日から3月3日まで行われる区議会の予算審査特別委員会で決定されますが、税金を無駄にしないように、区民の視点に立った有効な予算に仕上げたいと考えています。

次に、第4回定例会で私が民主クラブの代表質問を行いましたので、ダイジェスト版でご報告したいと思います。今回の質問は、全体のテーマを「区民生活を護る」視点から大きく5つのテーマで行いました。

まず第1に「平成23年度の予算編成と行財政運営の課題について」



この時期は、各部の予算要求が出される時期ですので、必ず来年度の予算編成方針を聞きます。私の視点は、税収が増えない中、効率よく予算配分するには、住民の意見を十二分に取り入れる仕組みをしっかりと持つべきだと質問しました。自治体マーケティングの視点です。単に定期的な世論調査や意識調査だけでなく、普段から随時区民のニーズに答えることが必要であります。国が審議している「新しい公共」の考えも取り組むべきと質しました。

第2に地域福祉の考え方です。

平成20年から本区では、町会・自治会・管理組合と一緒に「高齢者地域見守り支援事業」が実施されています。各地域では真剣に取り組みで頂いておりますが、障害者福祉との連携、活動するための拠点機能の整備、個人情報保護による情報共有の難しさなど、まだまだ課題があります。そうした課題を乗り越えるためにも、本区に7つある福祉会館をもっと有効に使い、またそこには児童関連施設もほとんど併設されているので、児童の見守りも含めて総合的に地域福祉を考えるべきと質しました。

第3に観光まちづくりについて

観光と都市計画などのまちづくりは、京都市など国内外の成功事例をみますと、中長期的な視点にたつて、住民・事業者・行政が一緒になって特色ある施策を持続的に展開しています。本区にその対応ができていくかどうか。また今年3月に策定する「観光推進プラン」は「地域資源を活用した観光振興」を具体化するためとあるが経済振興との結びつきを考えているか。また本区の観光協会を整備してもっと充実すべきと質しました。

日々の活動

★平成22年第四回 区政報告会開催



昨年の12月15日に、年4回、毎年定例会終了後に行っている区政報告会を開催しました。総勢80名ほどの参加者のもと、第4回定例会の報告と本区の今後の取り組みについて報告しました。教育、福祉、まちづくりなど様々な意見交換ができました。来年第1回定例会終了後3月23日を予定しています。

★視察報告

保育園・介護福祉施設の複合施設を視察

第4回定例会で、新砂にできる保育園と高齢者小規模多機能施設の複合施設の指定管理者に決まった、社会福祉法人こうほうえんを訪ねました。

当法人が運営する、介護老人福祉施設「うきま幸朋園」と併設する保育園は都営三田線蓮根駅より徒歩20分の所にあり、閑静な街並みに建っていました。そこには障がい者継続就労支援A型のパン屋さんと喫茶があり、高齢者と園児と障害者が一緒になって生活できる空間が見事に併設されていました。



私がお邪魔した時は、インフルエンザの関係で、高齢者との接点は見られませんでした。窓越しに子ども達と向き合う場面に遭遇していました。普段はいつも一緒に遊んでいるとのことでした。また地域との連携も深く、施設の理念である、「地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される」精神が随所に見受けられ、江東区での活躍が期待されます。

区内7つの福祉会館を調査

昨年11月中旬に、区内に7か所ある福祉会館を改めて調査しました。



ポイントは、地域福祉の拠点としての機能をどこまで果たせるか。福祉会館と併設されている保育園や児童クラブ、児童館との交流内容は、また福祉会館の利用状況ならびに施設の機能はどの程度差があるかなど、今後本区が地域福祉計画を策定する時のための準備として調査してきました。施設の新旧の差も問題がありますが、機能的にもっと活用できると思われ

▲第4に教育の課題と展望についてです。

何よりも重要なことは人材育成です。特に就学前からの教育、そして小学校・中学校での公教育での指導体制を充実させることが将来の日本にとって喫緊の課題です。そのためには、学校選択制の地域性の重視、学校評価制度の中でも授業評価の充実、ここ数年毎年110人ほど新任教員が増えるなかで、教職員の研修制度を充実させること、また学校図書館に司書教諭ではなく、専門司書を採用するなどの学校を取り巻く教育環境の整備を質しました。

第5に地元中小企業の振興策について質問しました。

地方自治体にとって地元の企業に元気がなければ、地域の活性化はあり得ません。しかし低迷する景気の連続で、企業は大変な状況に置かれています。こんな時こそ、自治体としてできる最大限の努力が必要で、そこで制度融資の金融支援はもちろんのこと、産学公の連携を強化し、本区が持つ公共事業を地元の中小企業が受注できるように、制度をもっと見直すように質しました。

以上が概略ですが、行政側の回答を含め、詳細はぜひ区議会のインターネット中継をご覧くださいければ幸いです。

皆様のご意見・ご要望等を「こころの相談窓口」へ。